

V. 国際連携

本センターでは、海外の大学教育の研究開発組織や研究者・実践者との交流・共同研究を進め、そのプロセスや成果をシンポジウム、研究会、書籍などで公開しています。

1. University Social Responsibility Network (USRN)

2021年2月3～5日に、University Social Responsibility Network(USRN)と南アフリカのプレトリア大学の共催によって、「USR SUMMIT 2021」(<https://usrsummit2021.carlamani.co.za>)がオンライン開催され、「Promoting USR Globally through Sharing Good Practice: USR MOOC and Beyond」と題する招待講演を、本センターの飯吉センター長・教授と米タフツ大学Robert Hollister名誉教授がおこなった。この講演では、本報告書のIII.2でも紹介されている京都大学と香港理工大学が協力して制作・配信をおこなっているMOOC「Introduction to University Social Responsibility(大学の社会的責任入門)」の概要ならびにその社会的意義について、特にUSRという大学初の世界的なムーブメントの拡大を、本MOOCを始めとして各大学が優れた取り組み実践事例を積極的に発信・共有していくことによってどのように推進できるか、という観点からの考察を踏まえ、実践コミュニティ形成や大学のシニアアドミニストレーター・教職員へのFD・SD等に関する今後の取り組みに向けた提案がおこなわれた。

さらに、同サミットでは、「Creating an International MOOC on University Social Responsibility」と題して、本センターのSadehvandi研究員と京都大学国際戦略本部のPalacio特定講師によって、本MOOCに事例を提供した京都大学と香港理工大学他5大学(Simon Fraser University, University of Manchester, University of New South Wales, University of Pretoria, University of Sao Paulo)との連携を通じた制作過程や、本MOOCに含まれる「COVID-19への大学の対応に関する特別セッション」の概要についても報告された。

(飯吉 透)



2. 合同FDセミナー「ミシガン州立大学におけるアクティブ・ラーニング—学生の学びを支援する教授技法—」

※本セミナーは昨年度に実施されましたが、昨年度のアニュアル・レポートには報告を掲載できませんでしたので、今年度掲載しています。

2020年2月20日に、ミシガン州立大学准教授のスコット・マルルーニー博士を講師として、国際高等教育院と本センターの合同FDセミナー「ミシガン州立大学におけるアクティブ・ラーニング—学生の学びを支援する教授技法—」を開催しました。マルルーニー博士は、ミシガン州立大学の理学部微生物学・分子遺伝学学科において学士課程教育担当の副学科長を務め、カリキュラムや授業の改善について指揮をとってこられた方です。同時に、自身の担当する微生物学の大人数初修科目では、2017年以降、500名規模の授業を講義ベースから「ハイブリッド」式に変えた経験をおもちです。今回は、国際高等教育院に集中講義の講師として招聘された機会を利用して、セミナーの実施を申し出てくださいました。

セミナーでは、アクティブ・ラーニングを「単に〈聞く〉だけではなく、〈する〉こと」と定義された上で、そのいくつかの技法(クリッカーなどを使った回答システム、小グループ活動、反転授業など)を事例と共に紹介してくださいました。また、アクティブ・ラーニングの方法として、学生による研究(undergraduate research)が普及してきていることにも言及されました。アクティブ・ラーニングの基本から最前線まで幅広い内容をコンパクトにお話いただき、専門分野が異なる教員にも大変参考になる内容でした。

参加者は、40名(学内のみ)で、国際高等教育院と本センターのほか、医・農・人環・生命科学研究科からも参加があり、活発な議論が行われました。

(松下 佳代)

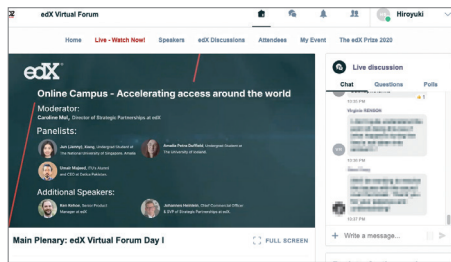


3. 訪問・参加報告

(1) edX Virtual Forum

会議名称	edX Virtual Forum (https://globalforum.edx.org/)
期間・場所	2020年12月7日～8日、オンライン開催
参加者	飯吉 透、酒井 博之

これまで、edXの加盟機関が一同に集いedXの最新動向の共有や加盟校間等での情報共有をおこなうedX Global Forumが開催されてきましたが、今年はCOVID-19の影響によりフルオンラインで“edX Virtual Forum”として開催されました。本フォーラムの初日は450名が参加したとアナウンスがありました。本フォーラムでは、COVID-19の影響により学習機会の継続を求めた人々がedXが提供する講義を受講したことにより、受講者数が急増したことが報告され、グローバルな規模で人々の学習の継続に貢献してきたことが確認されました。また、edXの講義の受講者を交えたパネルセッションや優秀講義の受賞式などもビデオ会議サービスを通じて実施されました。



edX Virtual Forumより

(酒井 博之)

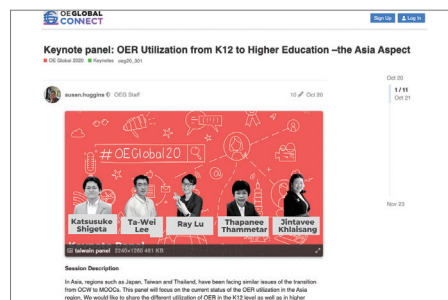
(2) Open Education Global Conference 2020

会議名称	Open Education Global Conference 2020 (https://conference.oeglobal.org/2020/)
期間・場所	11月16～20日、オンライン開催
参加者	酒井 博之・岡本 雅子・藤岡 千也・緒方 孝亮

11月16日から4日間にわたり、Open Education Global (通称OE Global、旧Open Education Consortium)*が主催するOpen Education Global Conferenceがフルオンラインで開催されました。世界中からオープンエデュケーションの研究や実践に携わる研究者、教育関係者、技術開発者等、43か国から736名が参加し、277のセッションを通じてMOOCやOCWをはじめとしたオープンエデュケーションに関する現状や課題が共有され、今後の方向性等に関して活発に議論がなされました。

今回のカンファレンスは、台北医学大学がホストとなりデルフト工科大学、eCampusOntarioの3拠点が連携し、それぞれの地域のセッションをリレー形式で引き継ぐ形で実施されました。基調講演や各セッションは本カンファレンス向けに開発したウェブサイトから一般公開されています。

*注：京都大学が加盟しているオープンエデュケーション・ジャパン(OE Japan)はOE Globalの賛助会員(sustaining member)となっています。



<https://connect.oeglobal.org/>

(酒井 博之)